

広報 いんざい

5月1日号

No. 758
平成26年(2014)

発行：印西市 編集：秘書広報課広報広聴班
〒270-1396 印西市大森2364-2 電話 0476-425111(代) FAX 0476-427242
ホームページ http://www.city.inzai.lg.jp/ Eメール home@city.inzai.lg.jp

主な内容

- ◆臨時福祉給付金および子育て世帯臨時特例給付金を支給予定…2
- ◆民生委員・児童委員に6人を委嘱…2
- ◆平成26年度生涯学習まちづくり出前講座…3

みんなできくろくろく 美しくなるわんぱう

ごみの分別「雑がみ」の種類が増えました

「雑がみ」はこの数年、製紙メーカーの技術の向上により、今までリサイクルできなかった紙類がリサイクル可能になっています。

これに伴い「雑がみ」に分類できる紙の種類を次のとおり増やしました。

◆新たに「雑がみ」として排出できるもの

- ▼アイス・ヨーグルトなどの紙カップ、紙パック・紙皿(※汚れを洗い流してください)
- ▼和紙、半紙
- ▼感熱紙(レシートなど)
- ▼カーボン紙、ノーカーボン紙(宅急便の伝票など)
- ▼金色や銀色に加工した紙。

◆今後も「燃やすごみ」として排出できるもの

- ▼汚れた紙(ティッシュや紙おむつなど)
- ▼臭いのついた紙(せっけんの個別包装紙、洗剤や線香の紙箱など)
- ▼アイロン



▶「雑がみ」は紙袋に詰めれば、バラバラにならずまとめられます。

プリントシートの紙▼圧着はがき▼写真、アルバム▼カップラーメンの紙製容器▼食品残渣物のついた紙容器。

◆「雑がみ」の出し方

そのまま重ねて、ひもでしばって出しても排出できますが、バラバラになりやすい場合は、上の写真のように紙袋(持ち手部分が紙以外の場合は取り除く)や封筒などの中にまとめて入れて、ひもで十字にしばって出すと便利です。

※雨の日は避けてごみ集積所へ出してください。

■クリーン推進課クリーン推進班(☎内線382)。

「廃棄物減量等推進員制度」がスタート

ごみの適正処理にとどまらず、環境への負荷の少ない循環型社会を形成するためには、ごみの減量、資源化をより一層進めていかなければなりません。

そのためには、市民と行政がそれぞれが役割を担い、互いに協力して取り組むことが必要となっています。

そこで、快適な環境づくりを目指し、市民と行政が連携・協力しながら、ごみの排出抑制や地域の清潔保持などを推進するための協働体制を構築する仕組みの一つとして、市では今年度から「廃棄物減量等推進員制度」を創設し、スタートさせます。

◆廃棄物減量等推進員とは
主に所属する町内会などを中

心に、さまざまな地域活動を行う推進員(クリーンパートナー)と、市の事業活動への協力を行う推進員(クリーンアドバイザー)で構成します。

クリーンパートナーは、各町内会長などからの推薦を受け、市長が委嘱します。クリーンアドバイザーは、ごみの減量や分別に関する知識と関心を有する人の中から市長が委嘱します。

◆主な活動
【クリーンパートナー】

5月25日は「ゴミゼロ運動」

市では、関東甲信越静1都10県にて一斉に行われる「ゴミゼロ運動」に昭和57年より参加しており、毎年市民のみならずの協力により地域環境の美化に貢献していただいています。

平成26年度も散乱ごみのないきれいな街を守るべく、クリーン印西推進運動と合わせて、一層のご協力をお願いします。

◆みんなできくろくろく「散乱ごみ」
わたしたちの住んでいる周辺の道端で、空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などが散乱している風景を目にすることがあります。これらは、道を歩いていて捨てられたものや車の窓から捨てられたものがほとんどです。

こうした散乱ごみを減らすため、一人ひとりが「自分のごみは自分の手で」という意識を常に



▶毎年多くの市民のみなさんが参加してくださっています(写真は過去のもので)

▼ごみの適正処理や減量に関する啓発活動▼ごみ集積所における分別や排出マナーの指導▼不法投棄などに関する監視、市への通報、防止策などへの協力。
【クリーンアドバイザー】

▼市が実施するごみ減量施策などへの協力。

【任期】
●クリーンパートナー…1年、クリーンアドバイザー…3年(いずれも再任可)。

※委嘱の日は6月1日(日)を予定。※いずれの推進員もボランティアでの活動となりますが、市の予算の範囲内で謝礼をお支払いします。

■クリーン推進課クリーン推進班。

ホテルマークワン(株)と市が災害発生時における帰宅困難者の受入れ等の協力に関する協定を締結

去る3月26日にホテルマークワン(株)と市は「災害発生時における帰宅困難者の受入れ等の協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、大規模災害の発生により帰宅困難者が発生した場合に地域の混乱を回避し、帰宅困難者の安全を確保するという市の応急対策活動について、ホテルマークワン(株)に協力いただくものです。

同協定には、ホテルマークワンCNT(中央南)の施設の一部を帰宅困難者の一時受入れ場所として提供するほか、避難者には水道水やトイレの提供、可能な範囲で飲料水や食料、毛布などの支援を行っていただくことが盛り込まれています。

▶協定書を持つホテルマークワン上村社長(右)と板倉市長(左)



また、大規模災害時には相互に情報を提供し情報の共有化に努めてまいります。市では、今後も一斉帰宅の抑制として「安全な場所からむやみに移動しない」という基本原則の周知に努めてまいります。■防災課防災班(☎内線452)。

みんなの恵み パパイメロン



▶みなさんもぜひご賞味ください

印西市は一年を通じてさまざまな農産物が栽培されていますが、初夏を告げる果物として「パパイメロン」があります。みなさんがメロンと聞いて想像する表面の網目はありませんが、中身は白い果肉で歯ざわりが良く、ジューシーでさっぱりとした甘さが特徴です。5月中旬ごろから市内農産物直売所などで販売されます。■農政課振興班(☎内線374・375)。